



国際戦略局国際協力課専門職

櫻井 真一

Sakurai Shinichi

平成17年10月 総務省採用
 総合通信基盤局国際部国際協力課
 平成20年7月 情報通信国際戦略局国際協力課
 平成21年7月 大臣官房総務課
 平成23年7月 情報流通行政局放送政策課
 平成24年5月 外務省在ポツワナ日本国大使館二等書記官
 平成27年8月 情報流通行政局放送政策課推進係長
 平成29年7月 情報流通行政局総務課総括係長
 令和元年7月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
 基幹通信係長
 令和2年8月 現職

日本企業のシェア獲得に向けて

課題解決を見据えた日本企業の海外展開支援

現在、私は、ICT分野の国際協力についての仕事をしています。国際協力と聞くと、途上国支援やJICAプロジェクトを連想されると思いますが、守備範囲はそれだけではなく、新興国での日本のICT企業の海外展開・進出の後押しも重要なミッションになっています。

後押しの方法は様々です。総務省予算を使ったプロジェクトの実施、ODA案件の形成、政府間対話の活用、売り込みたいソリューションを念頭にした二国間分野別協力メニューの策定等いろいろな方法にその可能性があります。相手国(途上国)の開発ニーズ、課題解決に有効な日本企業のサービス等を考慮しながら、どのような支援で日本企業が競争優位性を持つことができるのかを考える毎日です。

企業の方々との打合せは大変刺激的で勉強になることが多いです。官民一緒になって相手政府や事業者に対し活動を行うことも多く、地球規模で、オールジャパンで取り組む姿勢に、国際協力、海外展開支援の醍醐味を感じています。

印象に残る仕事にたくさん出会えます

私の場合、在ポツワナ日本大使館に外交官として従事した3年間がこれまでの業務の中で最も印象深かったです。地上放送のデジタル化において、日本方式を採用したポツワナ国に対し、スムーズな地デジ化を支援するため総務省から派遣されました。日々のカウンターパートとの意見交換、二国間会合開催のための議題案の調整、日本からの出張団の受け入れ等、どれも地味な労力を要するものでしたが、自分自身で立案した案件がJICAプロジェクトとして始動し、支援の甲斐あり、総務省の政務にご参加いただきながら、現地で地上デジタル放送開始式典に出席できた時の喜びは、忘れることができません。総務省には多様なキャリアパスが用意されています。それを活用することで自分の活躍の舞台を広げることができると思います。私自身、上述した外交官の他、電気通信事業や放送の制度改正と言った全く様相の異なる業務も経験しました。チャレンジ精神が強い人、所掌の幅が広い総務省で働くことは一考の価値有りと思います。

PRIVATE TIME

私はアウトドアが好きなので、週末、長い休みには家族を連れて、キャンプや登山に出かけています。平日はパソコン画面を見る時間が長く、行動範囲も限定的ですので運動不足になりがちですが、休みの日には大自然の中で、開放感あふれる環境に身を投げ、気持ちも体もリフレッシュすることを心がけています。

WEEK SCHEDULE

MONDAY

外務省主催の二国間政策対話に総務省からとして傍聴出席。

TUESDAY

オンライン会議にて技術協力プロジェクト実施事業者と今後の方向性につき議論。

WEDNESDAY

開発コンサル主催のウェビナーに参加。各国の情勢について情報収集。

THURSDAY

明日開催のオンライン会議の準備。使用する資料の最終チェック。

FRIDAY

総務省とウズベキスタン情報通信省とのオンライン政策対話を開催。



情報流通行政局地上放送課第二業務係長

小林 祐介

Kobayashi Yusuke

平成16年 4月 総務省採用
北海道総合通信局総務部総務課
平成17年 4月 北海道総合通信局無線通信部陸上課
平成18年 8月 関東総合通信局総務部総務課
平成19年 7月 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成21年 7月 総合通信基盤局電波部電波環境課
監視管理室
平成23年 1月 情報流通行政局衛星・
地域放送課地域放送推進室
平成24年 8月 総合通信基盤局総務課
平成25年 1月 総合通信基盤局総務課主任
平成26年 8月 情報通信国際戦略局情報通信政策課専門職
平成27年 10月 大臣官房秘書課給与第三係長
令和元年 8月 現職

放送行政の現場から

放送の変わること、変わらないこと

近年、インターネットやスマートフォンの普及など、情報通信技術の進歩により、テレビやラジオの視聴形態にも変化が現れています。例えば、現在では多くの放送番組がリアルタイムの放送ではなくネット配信等での視聴が可能となり、従来のように放送時間に合わせて自分のライフスタイルを調整するのではなく、テレビ番組等の視聴時間をライフスタイルに合わせるような視聴形態が増加しています。このように時代とともに国民生活が変容する中で、放送もその変化にフィットするように様々な取り組みが行なわれています。

一方で、災害時等において放送は迅速かつ正確な情報伝達手段として、極めて重要な役割を果たしており、時代が変わってもこうした機能は変わらず維持されていく必要があります。

私の所属する地上放送課では、このような観点から、地上放送サービスの充実・発展のための制度の検討や、放送事業者への許認可等の業務を担当しています。

様々な業務を通じて、見えてくるもの

総務省の所掌する業務は多岐にわたります。入省後は、概ね2年毎に様々な分野への異動を繰り返しながら、行政官としての経験や知識を積み上げていきます。実際に働いてみると2年というのはあっという間で、どの部署でも1年目はとにかく勉強することが多く、ついて行くのがやっとの状態、慣れてきた頃には次の部署へ異動ということも少なくありません。かつてはこのペースに少し戸惑ったこともありますが、上司や同僚のサポートも得ながら業務経験を重ねることで、効率的に業務を行なう「コツ」は徐々に身についていくので心配はいりません。

総務省は、多くの分野の業務を経験する分、学ぶべきことも多いですが、その分、自分の興味がある分野や、自分の能力を発揮できる業務を見つけることができる職場だと思います。

Q 実際に働いてみて、入省前のイメージと違ったことは？

A 入省前、業務において、情報通信分野における専門知識を求められるのではないかと不安がありました。しかし、予備知識のない私でも現在までやっていくことができましたので、やる気があれば現時点での専門知識の有無は気にする必要はありません！

予備知識よりも、凝り固まっていない皆さんの柔軟な発想力に大いに期待しています！

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

A 個別具体的な業務ではありませんが、現職では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みとして、テレワーク勤務の機会が大幅に増加しました。これまでも総務省では働き方改革の観点でテレワーク勤務拡大に取り組んでいるところですが、今回、こうした特殊状況下で「まずはやってみる」が達成されたことによって、今後の総務省の働き方改革が、大きく前進するのではないかと、一職員として期待しています。

PRIVATE TIME

競馬を嗜んでいます。新しい生活様式が求められる中、ステイホームで楽しめる至上のエンターテインメント、それが「競馬」です。月曜から金曜にかけて様々な角度から分析し組み立てた渾身の予想を、週末のレースにぶつける。そんなプロセスを20年近く飽きずに続けています。皆さんからの貴重な情報提供お待ちしております。





総合通信基盤局電波部移動通信課移動体推進係長

杉本 武政

Sugimoto Takemasa

平成16年 4月 総務省採用 関東総合通信局無線通信部
航空海上課

平成18年 8月 関東総合通信局総務部総務課

平成19年 7月 総合通信基盤局電波部移動通信課

平成21年 7月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課

平成23年 7月 総合通信基盤局総務課

平成24年 8月 情報通信国際戦略局技術政策課
研究評価係長

平成27年 8月 情報流通行政局放送技術課音声放送係長

平成29年 7月 情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室
応用研究係長

平成29年 9月 国際戦略局技術政策課研究推進室
応用研究係長

令和元年 7月 現職

最新の情報通信技術を社会に

携帯電話が社会基盤に

私は現在、携帯電話の利便性を向上させるための携帯電話の基地局整備に関する制度整備や許認可といった業務を担当しています。

携帯電話は今や人と人がコミュニケーションを行うためのツールではなく、身のまわりのあらゆるモノがネットワークにつながるIoT時代のICT基盤として期待されています。このため、携帯電話は全国どこでも使えるといったことだけでなく、通信速度や通信品質の向上、安全性や信頼性の確保といった社会基盤としての能力が求められます。限られた資源である電波を使ってこのようなニーズを実現するため、電波の利用効率を向上させ、より多くの基地局が円滑に整備され、セキュアで強靱な携帯電話網が整備されるよう、制度整備等に取り組んでいます。

最近では、第5世代移動通信システムいわゆる「5G」の基地局整備に関する制度整備や許認可等を行っており、早期の5G普及に向け、日々奮闘しています。

最先端の技術に関する業務

私がこれまで担当してきた業務の多くは最先端の技術に関わるものでした。

新しい技術を社会に導入するためには、その適切な運用や機能の実現のため、ルールが必要となります。特に電波という非常に便利で有限希少な資源を使用する無線通信においては、既に様々なシステムが利用されており、新しい技術を導入する際は、一つ間違えば既存システムに悪影響が出てしまうこともあります。このため、既存のシステムに影響が出ないように規制すべきところは規制をし、逆に十分な機能を発揮できるよう制度を整備する必要があります。

最先端の技術に係る制度を整備することは容易な事ではありませんし、既存のシステムへの影響を出してはならないという大変な責任がありますが、無線通信に関する最先端の技術を社会に導入するお手伝いができ、またその技術が実際に社会で活用されているのを自分の目で見るので、とてもやりがいのある業務だと思っています。

Q 実際に働いてみて、入省前のイメージと違ったことは？

A 入省前はやはりお役所に対しては人も含め堅いイメージが多分ありました。しかし、実際に働いてみると、高い役職の方から気さくに話しかけていただいた事もありますし、先輩方は優しい方が多く、組織としても息苦しいと感じたことはありません。変化の激しい情報通信の分野を取り扱っていることから組織として柔軟性が求められているからかもしれませんが、とても働きやすい職場です。

Q 大学で学んだことが役に立ったか？

A 研究室では、目標に向け自分で課題を見つけ、自分でそれを解決する方法を検討し、その内容を毎週発表し、研究室で議論するというスタイルで研究を進める指導が行われていました。職場では与えられた仕事をこなすだけではなく、主体性を持って課題の解決策を検討し、上司等に説明することが求められますので、研究室での研究の進め方が今の業務への取り組み方に役に立っています。

PRIVATE TIME

最近はコロナウイルスの流行や子供が小さいこともあり行けていませんが、普段は職場と自宅の往復で自然を感じる事が少ないため、休日には自然の多い場所に旅行に行き意識的に自然を感じるようにしています。アクティビティをしたり博物館等にも行ったりしてリフレッシュしています。





総合通信基盤局 電気通信事業部
消費者行政第一課専門職

神崎 博年

Kanzaki Hirotohi

平成21年 4月 総務省採用 情報流通行政局総務課

平成23年 7月 情報流通行政局情報流通振興課

平成24年 8月 大臣官房秘書課

平成27年 8月 情報流通行政局情報通信利用促進課
推進係長

平成29年 4月 北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課
企画監理官

平成30年 4月 北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課
情報通信振興室企画監理官

平成30年 10月 大臣官房秘書課障害者雇用推進室主査

令和2年 4月 現職

電気通信サービスと消費者保護ルールについて

変化を捉えて、改善に繋げる

「電気通信サービス」とは、携帯電話、固定電話、パソコン等を利用可能とする通信サービスのことを言います。この電気通信サービスは、常に高度化・多様化・複雑化しており、消費者に利便性の向上をもたらす一方、消費者と事業者の間の情報格差を拡大させています。さらに事業者による悪質な営業活動等を起因とした消費者トラブルも多数発生しており、大きな問題となっています。そのため総務省では、電気通信事業法における「消費者保護ルール」を規定し、事業者の営業活動等に対して行政的な規律を設けて消費者利益の保護を図っています。

私は現在、総務省に寄せられる消費者トラブルの情報提供や苦情申告の受付、また、その取りまとめを行っています。寄せられた情報は総務省にとって貴重な情報源であり、これらをきっかけに制度改正等に繋がることも少なくありません。そのため、日々やりがいを感じながら業務に取り組んでいます。

ICTで日本の未来を明るくする

総務省のICT政策は、電気通信事業政策、電波政策、放送政策等、多岐に渡ります。これらの政策は、携帯電話、インターネット、テレビといった生活に身近なものが多く、将来どう発展するのか興味を持ちながら業務に取り組んでいます。

現在の日本全体の社会課題として、「人口減少」「少子高齢化」「コロナ対策」等があり、総務省でもこれらの課題解決に向け各種ICT政策を展開しています。

しかし、課題解決と一言で言っても地域により状況は異なります。

私は以前、地方総合通信局で勤務する機会がありました。その勤務時に各地域が持つ強みや課題が地域ごとに様々であることを知りました。それまでは東京周辺の事情を考えがちでしたが、この勤務経験から各地域の状況を想定して施策を実施することの大切さを学びました。

総務省には様々な場所で活躍して成長できる機会があります。皆さんにもぜひ総務省に興味を持っていただきたいです。

PRIVATE TIME

運動不足の解消のため、休日はなるべく散歩やジョギングをしています。また、ここ数年は「青梅マラソン」にも参加しています。コロナ禍の影響により令和3年は開催延期となりましたが、代替イベントとしてオンライン形式の「青梅ロードレース」が開催されました。3密を避けながら楽しく参加いたしました。

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

A 元々、私はICTに疎い人間でした。入省するまでパソコンを利用する機会はほとんどなく、パソコンの操作方法や専門用語を知りませんでした。そんな中、参加した総務省業務説明会で説明者から、「インターネットやパソコン等を利用できる方と利用できない方との間に生じる情報格差『デジタル・ディバイド』を解消したい」という言葉を聞いて、その思いに共感し、総務省を志望しました。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージをお願いします。

A 就職活動中の皆さんは希望と不安な気持ちでいっぱいだと思います。私自身もそうでした。すぐに「自分は何がしたいのか」を具体的にイメージすることは難しいと思います。しかし志望先はしっかりと自分で探して、自分で調べて、自分で決めてほしいと思います。自身と向き合って志望先を選択することは、面接等の各種選考に自信を持って臨むためには欠かせません。しっかり準備をして、悔いのない就職活動をしていきましょう。

